

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

午前の部

# 登録販売者試験

(平成30年 9月 13日 (木) 実施)

## 試験問題

医薬品に共通する特性と基本的な知識・・・ 問 1 ～ 問 20  
 主な医薬品とその作用・・・・・・・・・・・・ 問21 ～ 問 60

### 注意事項

- 試験開始のアナウンスがあるまで、問題を開かないこと。
  - 試験監督員のアナウンスにより、問題用紙の表紙に受験番号を記入するとともに、解答用紙に氏名及び受験番号（6桁）を記入すること。  
 (注) ①受験番号は、算用数字で記入すること。  
 ②解答用紙の「受験番号記入欄」には、受験番号に対応した数字をマークすること。
  - 問題用紙は、表紙を除いて30ページある。試験開始後、乱丁等がないかを確認し、異常があるときは速やかに試験監督員に申し出ること。
  - 各問題について、答えを一つ選び、その番号のカッコの中全体をHBより濃い黒鉛筆で濃くぬりつぶすこと。(下記(例)参照)
- (例)【問150】  
 次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。
- |   |   |   |   |
|---|---|---|---|
|   | a | b | c |
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |
- a.  $1 + 1 = 2$ である。  
 b.  $5 - 3 = 3$ である。  
 c.  $1 \times 2 = 2$ である。
- aは正、bは誤、cは正であるから、正しい答えは「1」となる。  
 よって、問題番号に対応した解答用紙の番号「150」欄の「1」を塗りつぶすこと。
- |     |
|-----|
| 150 |
| 「1」 |
| 「2」 |
| 「3」 |
| 「4」 |
| 「5」 |

→

150
■
「2」
「3」
「4」
「5」
- なお、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないように完全に消すこと。鉛筆のあとが残った場合は、修正または解答したことにならないから注意すること。
- 解答用紙の<注意事項>もよく読んでおくこと。



## 医薬品に共通する特性と基本的な知識

### 【問1】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は本来、人体にとっては異物（外来物）である。
- b. 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑かつ多岐に渡り、医療用医薬品についてはそのすべてが解明されていないが、一般用医薬品については、そのすべてが解明されており、期待される有益な効果（薬効）のみをもたらす。
- c. 一般用医薬品は、医療用医薬品に比べて安全性が高いので、市販後に、新たな知見等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みは設けられていない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

### 【問2】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する可能性がある。
- b. 医薬品の効果とリスクは、薬物曝露時間と曝露量との積で表現される用量-反応関係に基づいて評価される。
- c. 医薬品の安全性の基準については、製造販売後の調査及び試験の実施の基準として Good Vigilance Practice (GVP) と、製造販売後安全管理の基準として Good Post-marketing Study Practice (GPS P) が制定されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	誤

【問3】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品は法的にも、また安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なるものであることを認識し、消費者に指導・説明を行わなくてはならない。
- b. 健康補助食品（いわゆるサプリメント）の中にはカプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状で発売されているものも多く、誤った使用法により健康被害を生じた例も報告されている。
- c. 機能性表示食品は、疾病に罹患している者の健康の維持及び増進に役立つ旨又は適する旨を表示するものである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問4】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. WHO（世界保健機関）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。
- b. 医薬品の副作用は、薬理作用によるものをいい、アレルギー（過敏反応）によるものは含まない。
- c. 医薬品の副作用は、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問5】

医薬品によるアレルギー（過敏反応）に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品のアレルギーは、内服薬によって引き起こされるものであり、外用薬によって引き起こされることはない。
- b. アレルギーには遺伝的な要素もあり、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、医薬品の使用の際に注意が必要である。
- c. 基本的に薬理作用がない添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）とはならない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問6】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 疾病の根本的な治療がなされないまま、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和する対処を漫然と続けていても、有害事象を招く危険性が増すことはない。
- b. 医薬品の販売等に従事する専門家は、必要以上に大量購入などを試みる不審な購入者等に対しては慎重に対処する必要がある。
- c. 一般用医薬品には、習慣性・依存性のある成分を含んでいるものがあり、それらの医薬品が乱用されることがあるので、注意が必要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問7】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の相互作用とは、複数の医薬品を併用したときに、医薬品の作用が増強する場合であって、作用が減弱する場合には相互作用とは言わない。
- b. 相互作用は、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄<sup>せつ</sup>される過程で起こり、医薬品が薬理作用をもたらす部位では起こらない。
- c. 相互作用を回避するには、通常、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問8】

次の a～c の ( ) に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

アルコールは、主として肝臓で ( a ) されるため、酒類 (アルコール) をよく摂取する者では、その ( a ) 機能が ( b ) ことが多い。その結果、アセトアミノフェンでは、( c ) ことがある。

	a	b	c
1	代謝	高まっている	作用が強く出過ぎる
2	消化	低下している	作用が強く出過ぎる
3	代謝	高まっている	十分な薬効が得られなくなる
4	代謝	低下している	十分な薬効が得られなくなる
5	消化	高まっている	十分な薬効が得られなくなる

【問9】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般的に、5歳未満の幼児に使用される錠剤の医薬品では、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- b. 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- c. 乳児の疾患においては、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめるのが望ましい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問10】

高齢者に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として70歳以上を「高齢者」としている。
- b. 基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみから一概にどの程度医薬品の副作用を生じるリスクが増大しているかを判断することは難しい。
- c. 医薬品の副作用で口渇を生じた場合、誤嚥（食べ物等が誤って気管に入り込むこと）を誘発しやすくなる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 1 1】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ビタミンA含有製剤のように、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものがある。
- b. 一般用医薬品において、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
- c. 授乳婦が使用した医薬品の成分が乳汁中に移行することはない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	正	誤

【問 1 2】

医療機関で治療を受けている人等が一般用医薬品を使用する場合、配慮しなければならないことに関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることがある。
- b. 登録販売者は医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人に対し、一般用医薬品との併用の可否について、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。
- c. 医療機関での治療は特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤



【問 1 3】

プラセボ効果について、次の a ~ c の ( ) に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に ( a ) によらない作用を生じることがプラセボ効果 ( ( b ) 効果) という。プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待 (暗示効果) や、条件付けによる生体反応、時間経過による ( c ) な変化等が関与して生じると考えられている。

	a	b	c
1	薬理作用	偽薬	自然発生的
2	生理作用	相乗	人為的
3	薬理作用	偽薬	人為的
4	生理作用	偽薬	自然発生的
5	薬理作用	相乗	自然発生的

【問 1 4】

医薬品の品質に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は、高温や多湿によって品質の変化を起こしやすいものが多いが、光（紫外線）による劣化はない。
- b. 一般用医薬品は、購入後すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされるべきである。
- c. 表示された「使用期限」は、開封の有無にかかわらず品質が保持される期限である。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 15】

一般用医薬品の販売時に登録販売者が留意すべき事項に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 購入者等に対して常に自己の経験だけに基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。
- b. 激しい腹痛があるなど、症状が重いときでも、まず、一般用医薬品を使用して症状の緩和を図るよう勧める必要がある。
- c. 一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲は、乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、その範囲は限られてくることに留意される必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 16】

一般用医薬品の販売時に行うコミュニケーションに関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 情報提供は、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているかなどの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まる。
- b. 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合には、コミュニケーションを図る必要はない。
- c. 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	誤	正

【問 17】

次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. サリドマイド訴訟は、催眠鎮静剤等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- b. サリドマイドは、副作用として血管新生を促進する作用があった。
- c. 日本では、サリドマイド製剤の催奇形性について海外から警告が発せられた後、直ちに出荷停止、回収措置がとられた。
- d. サリドマイドによる薬害事件は、世界的に問題となったため、WHO（世界保健機関）加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

1. (a, b)   2. (a, c)   3. (a, d)   4. (b, d)   5. (b, c)

【問 18】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. スモン訴訟は、解熱鎮痛薬として販売されたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症（スモン）に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b. スモンはその症状として、激しい腹痛を伴う下痢、下半身の痺れ、歩行困難等が現れるが、麻痺が上半身に拡がることはない。
- c. スモン訴訟を契機の一つとして、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問19】

H I V訴訟を契機としたH I V感染者に対する恒久対策及び医薬品の安全対策に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 献血時の問診の充実が図られた。
- b. エイズ治療研究開発センターが整備された。
- c. 製薬企業に対し、従来の副作用報告に加えて感染症報告が義務づけられた。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問20】

次の1～5の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※ C J Dとはクロイツフェルト・ヤコブ病をいう。

- 1. C J D訴訟は脳外科手術等に用いられたウシ乾燥硬膜を介してC J Dに罹患した<sup>り</sup>ことに対する損害賠償訴訟である。
- 2. C J Dは、タンパク質の一種であるプリオンが原因であるとされている。
- 3. C J D訴訟は、国、輸入販売業者及び製造業者を被告として提訴された。
- 4. C J D訴訟は、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設される契機の一つとなった。
- 5. C J D訴訟の和解を踏まえて、C J D患者の入院対策・在宅対策の充実等の措置が講じられるようになった。

## 主な医薬品とその作用

### 【問 2 1】

「かぜ」（感冒）に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から取り除くものである。
- b. かぜの症状は、くしゃみ、鼻汁・鼻閉（鼻づまり）、咽喉頭痛、咳、痰等の呼吸器症状と、発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等、様々な全身症状が組み合わさって現れる。
- c. 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

### 【問 2 2】

かぜ薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. かぜ薬を一定期間又は一定回数使用して症状の改善がみられない場合は、かぜとよく似た症状を呈する別の疾患や細菌感染の合併等が疑われるため、一般用医薬品で対処することは適当でない可能性がある。
- b. エテンザミドが配合されたかぜ薬は、水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっている15歳未満の小児への使用を避ける必要がある。
- c. かぜの時に消耗しやすいビタミン又はビタミン様物質を補給することを目的として、アスコルビン酸やリボフラビンが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	正	誤

【問 2 3】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アセトアミノフェンは、他の解熱鎮痛成分よりも胃腸障害が生じやすいため、空腹時に服用ができない。
- b. イブプロフェンは、プロスタグランジンの産生を抑制することで消化管粘膜の防御機能を低下させるため、潰瘍性大腸炎やクローン氏病の既往歴がある人では、それらの疾患の再発を招くおそれがある。
- c. イソプロピルアンチピリンは、現在、一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 2 4】

次の 1 ~ 5 の中から麻薬性鎮咳成分<sup>がい</sup>の一つを選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1. コデインリン酸塩
- 2. ノスカピン塩酸塩
- 3. デキストロメトルファン臭化水素酸塩
- 4. ジメモルファンリン酸塩
- 5. クロペラスチン塩酸塩

【問25】

眠気を促す薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ブロモバレリル尿素は、催眠鎮静薬以外の医薬品にも配合されていることがあるので、この成分を含有する医薬品と他の催眠鎮静薬が併用されると、効き目や副作用が増強されるおそれがある。
- b. 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬は、一時的な睡眠障害の緩和に用いられるものであり、妊娠中にしばしば生じる睡眠障害も適用対象である。
- c. 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがあり、特に15歳未満の小児ではそうした副作用が起きやすいため、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は避ける。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問26】

眠気防止薬としてのカフェインに関する次のa～dの記述について、正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. カフェインとして1回摂取量は、500mg、1日摂取量は1,500mgが上限とされている。
- b. 反復摂取すると、依存を生じる場合がある。
- c. 副作用として、振戦（震え）、めまい、不安、不眠、頭痛等を生じることがある。
- d. 小・中学生の試験勉強に効果があるため、15歳未満の小児に適している。

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (b, c) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問 27】

小児の疳<sup>かん</sup>を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の1～5の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. 配合される生薬成分は、いずれも古くから伝統的に用いられており、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用が無い。
2. ジンコウは、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。
3. 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合にあっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととなっている。
4. 主な漢方処方製剤としては、桂枝加竜骨牡蛎湯<sup>けいしかりゅうこつほれいとう</sup>、抑肝散<sup>よくかんさん</sup>、小建中湯<sup>しょうけんちゅうとう</sup>がある。
5. 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。

【問 28】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 鎮咳去痰薬<sup>がい たん</sup>は、咳<sup>せき</sup>を鎮める、痰<sup>たん</sup>の切れを良くする、喘息症状<sup>ぜん</sup>を和らげる、また、発熱を鎮めることを目的とする医薬品の総称である。
- b. 気道に吸い込まれた埃<sup>ほこり</sup>や塵<sup>ちり</sup>などの異物が、気道粘膜の線毛運動によって排出されないときなど、それらを排除しようとして反射的に咳<sup>せき</sup>が出る。
- c. 咳<sup>せき</sup>はむやみに抑え込むべきではないが、長く続く咳<sup>せき</sup>は体力の消耗や睡眠不足をまねくなどの悪影響もある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤



【問29】

鎮咳去痰薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. コデインリン酸塩は、胃腸の運動を低下させる作用を示し、副作用として便秘が現れることがある。
- b. マオウは、交感神経系への刺激作用によって、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- c. カンゾウは、グリチルリチン酸による抗炎症作用のほか、気道粘膜からの分泌を抑制する作用も期待される。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問30】

口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）に関する次のa～dの記述について、正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
- b. 口内炎などにより口腔内にひどいただれがある人では、刺激感等が現れやすいほか、成分の一部が循環血流中へ移行し、全身的な影響も生じる場合がある。
- c. 殺菌消毒成分であるヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンCと反応すると殺菌作用が増強される。
- d. トローチ剤は、噛み砕いて飲み込んでしまうと効果は期待できない。

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問3 1】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. オウレンが配合された健胃薬は、苦味があるので、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用するとよい。
- b. スクラルファートは、アルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- c. 健胃薬、消化薬、整腸薬又はそれらの目的を併せ持つものには、医薬部外品として製造販売されている製品はない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問3 2】

胃腸薬に含まれる成分のうち、胃液分泌抑制作用を期待して配合される成分として、次の a ~ d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1 ~ 5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. カフェイン
- b. ピレンゼピン塩酸塩
- c. ロートエキス
- d. リパーゼ

1. ( a , b )   2. ( a , c )   3. ( b , c )   4. ( b , d )   5. ( c , d )

【問 3 3】

腸及び腸に作用する薬に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 水分の吸収は、大半が大腸で行われ、腸内容物が糞便となる過程で適切な水分量に調整される。
- b. 瀉下薬については、相乗効果が得られるため、複数の瀉下薬を併用することが望ましい。
- c. マルツエキスは、瀉下薬としては比較的作用が穏やかなため、主に乳幼児の便秘に用いられる。
- d. 下痢に発熱を伴う場合は、食中毒菌等による腸内感染症の可能性があるので、安易に止瀉薬を用いて症状を一時的に鎮めようとするのではなく、早期に医療機関を受診して原因の特定、治療がなされるべきである。

1. ( a , b )   2. ( a , c )   3. ( b , c )   4. ( b , d )   5. ( c , d )

【問 3 4】

腸の薬の配合成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ベルベリン塩化物は、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b. 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることにより、糞便中の水分量を減らす作用がある。
- c. センノシドは、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問35】

胃腸鎮痛鎮<sup>けい</sup>痙<sup>けい</sup>薬に配合される成分とその主な副作用に関する次のa～dの記述について、正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成分	副作用
a. ブチルスコポラミン臭化物 -----	散瞳
b. ロートエキス -----	下痢
c. パパベリン塩酸塩 -----	胃液分泌抑制
d. アミノ安息香酸エチル -----	メトヘモグロビン血症

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (a, d) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問36】

一般用医薬品の浣腸薬<sup>かん</sup>に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 便秘以外のときにも直腸内容物の排除を目的として用いることは、使用方法として適切である。
- b. グリセリンが配合された浣腸薬<sup>かん</sup>が、肛門<sup>こう</sup>や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- c. 坐剤<sup>ざ</sup>を挿入した後は、すぐに排便を試みる必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問37】

次のa～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

一般用医薬品の強心薬は、疲労やストレス等による（ a ）の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的として用いられる。その代表的な配合成分として、シナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めた（ b ）や、マンシュウアカジカ等の雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を用いた（ c ）などがある。

	a	b	c
1	重度	リュウノウ	ロクジョウ
2	重度	センソ	ゴオウ
3	重度	センソ	ロクジョウ
4	軽度	リュウノウ	ゴオウ
5	軽度	センソ	ロクジョウ

【問38】

高コレステロール改善薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. パンテチンは、低密度リポタンパク質（LDL）等の異化排泄<sup>せつ</sup>を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。
- b. ビタミンEは、コレステロールの生合成抑制と排泄<sup>せつ</sup>・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。
- c. 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの瘦身<sup>そう</sup>効果を目的とする医薬品である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問39】

次の表は、ある貧血用薬に含まれている成分の一覧である。

この貧血用薬に関する次のa～dの記述について、正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1日量（2錠）中	
溶性ピロリン酸第二鉄	79.5mg
シアノコバラミン（ビタミンB <sub>12</sub> ）	50μg
葉酸	2mg

- a. 服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物を摂取すると、鉄の吸収が良くなる。
- b. 本剤に配合されている葉酸とビタミンB<sub>12</sub>は、正常な赤血球の形成に働くことを期待して配合されている。
- c. 本剤の主な副作用として、便秘、下痢等の胃腸障害が現れることがある。
- d. 鉄欠乏性貧血を予防するため、貧血の症状がみられる以前から継続的に本剤を使用することが適当である。

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (a, d) 4. (b, c) 5. (b, d)

【問40】

ユビデカレノンに関する次の1～5の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1. エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。
- 2. 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を抑えることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
- 3. 動悸、息切れ、むくみの症状は、高血圧症、呼吸器疾患などが原因となって起こることもあるので、これらの基礎疾患がある人では、使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談するべきである。
- 4. 副作用として、胃部不快感、食欲減退、吐きけ、下痢、発疹・痒みしん かゆが現れることがある。
- 5. 別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。

【問 4 1】

外用痔疾用薬に配合される次の a～d の成分のうち、止血効果を期待して配合される成分に該当するものの正しい組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. セイヨウトチノミ
- b. テトラヒドロゾリン塩酸塩
- c. ナファゾリン塩酸塩
- d. デカリニウム塩化物

1. ( a , b )   2. ( a , c )   3. ( b , c )   4. ( b , d )   5. ( c , d )

【問 4 2】

泌尿器用薬として用いられる生薬成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ウワウルシは、ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬である。
- b. モクツウは、シソ科のウツボグサの花穂を基原とする生薬である。
- c. ソウハクヒは、クワ科のマグワの根皮を基原とする生薬である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	誤	正

【問43】

婦人薬及びその配合成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- b. 女性ホルモン成分は、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- c. 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、コウブシが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問44】

婦人薬として用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬にダイオウを含むため、授乳婦や妊婦又は妊娠していると思われる女性の使用に関して留意する必要があるものを次の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1. 柴胡桂枝乾姜湯 さいこけいしかんきょうとう
- 2. 温清飲 うんせいいん
- 3. 四物湯 しもつとう
- 4. 加味逍遙散 かみしょうようさん
- 5. 桃核承気湯 とうかくじょうきとう



【問45】

アレルギー用薬に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. クロルフェニラミンマレイン酸塩は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- b. パンテノールは、依存性がある成分であり、長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- c. トラネキサム酸は、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることにより、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として用いられる。
- d. フェニレフリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として用いられる。

1. ( a , b )   2. ( a , d )   3. ( b , c )   4. ( b , d )   5. ( c , d )

【問46】

鼻炎用点鼻薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. スプレー式鼻炎用点鼻薬は、噴霧後に鼻汁とともに逆流する場合があるので、使用前に鼻をよくかんでおくほうが良い。
- b. リドカインは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される。
- c. ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

【問47】

次の表は、ある点眼薬に含まれている成分の一覧である。

この点眼薬に配合されている、次の成分の主な作用・目的としてあてはまらないものを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

12mL中	
塩酸テトラヒドロゾリン（テトラヒドロゾリン塩酸塩）	0.05%
ネオスチグミンメチル硫酸塩	0.005%
アラントイン	0.2%
クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.03%
ビタミンB <sub>6</sub>	0.1%
L - アスパラギン酸カリウム	1%

1. 血管を収縮させて目の充血を除去
2. 目の調節機能の改善
3. 目の疲れを改善
4. 炎症を生じた眼粘膜の組織修復作用
5. 抗菌作用による防腐効果

【問48】

点眼薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものもあり、目のかすみが緑内障による症状であった場合には改善効果が期待できる。
- b. 一般用医薬品の点眼薬は、その主たる配合成分から、人工涙液、一般点眼薬、抗菌性点眼薬、アレルギー用点眼薬に大別される。
- c. コンタクトレンズをしたままでの点眼は、ソフトコンタクトレンズ、ハードコンタクトレンズに関わらず、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問49】

皮膚に用いる薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般的に、じゅくじゅくと湿潤しているみずむしの患部には、液剤より軟膏<sup>こう</sup>又はクリームが適する。
- b. ウフェナマートは、炎症を生じた組織に働いて、細胞膜の安定化、活性酸素の生成抑制などの作用により、抗炎症作用を示すと考えられている。
- c. 通常、人間の外皮表面には「皮膚常在菌」が存在しており、創傷部に殺菌消毒薬を繰り返し適用する必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	正	誤

【問50】

歯槽膿漏<sup>のう</sup>薬に配合される次のa～dの成分のうち、殺菌消毒成分に該当するものの正しい組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. セチルピリジニウム塩化物
- b. ヒノキチオール
- c. カルバゾクロム
- d. フィトナジオン（ビタミンK<sub>1</sub>）

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問5 1】

口内炎用薬及びその配合成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 茵陳蒿湯<sup>いんちんこうとう</sup>は、体の虚弱な人や胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- b. ポビドンヨードは、患部からの細菌感染を防止することを目的としている。
- c. シコンは、組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問5 2】

咀嚼<sup>そしやく</sup>剤である禁煙補助剤に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 大量に使用しても禁煙達成が早まるものでなく、かえってニコチン過剰摂取による副作用のおそれがあるため、1度に2個以上の使用は避ける必要がある。
- b. 喫煙を完全に止めずに使用することとされている。
- c. 口腔<sup>くわう</sup>内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔<sup>くわう</sup>内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問53】

滋養強壯保健薬に配合されるビタミン成分の主な働きに関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ビタミンB<sub>2</sub>は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b. ビタミンEは、目の乾燥感、夜盲症（とり目）の症状を緩和する作用がある。
- c. ビタミンB<sub>1</sub>は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	誤	正

【問54】

次の記述に該当する漢方処方製剤を下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適するとされる。構成生薬としてカンゾウを含む。

- 1. 大柴胡湯 だいかいことう
- 2. 防風通聖散 ぼうふうつうしょうさん
- 3. 防己黄耆湯 ぼういおうぎとう
- 4. 黄连解毒湯 おうれんげどくとう
- 5. 清上防風湯 せいじょうぼうふうとう

【問55】

生薬に関する次のa～cの記述について、該当するものの正しい組み合わせを下表の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- b. マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮痙<sup>けい</sup>等の作用を期待して用いられる。
- c. キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。

	a	b	c
1	レンギョウ	ボウフウ	ショウマ
2	レンギョウ	ボウフウ	ブシ
3	ブクリョウ	カッコン	ショウマ
4	ブクリョウ	カッコン	ブシ
5	レンギョウ	カッコン	ショウマ

【問56】

消毒薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 次亜塩素酸ナトリウムやサラシ粉は、強い酸化力により一般細菌類、真菌類に対して殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- b. エタノールは、粘膜刺激性があり、粘膜面や目の回り、傷がある部分への使用は避けることとされている。
- c. ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム、トリクロロイソシアヌル酸等の有機塩素系殺菌消毒成分は、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問57】

殺虫剤に配合される成分とその分類の関係が正しいものを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成分	分類
1. クロルピリホスメチル-----	有機塩素系
2. プロポクスル-----	オキサジアゾール系
3. ペルメトリン-----	ピレスロイド系
4. メトキサジアゾン-----	カーバメイト系
5. オルトジクロロベンゼン-----	有機リン系

【問58】

一般用検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 体外診断用医薬品の多くは医療用検査薬であるが、一般用検査薬については店舗販売業において取り扱うことが認められている。
- b. 検体中に存在しているにもかかわらず、その濃度が検出感度以下であったり、検出反応を妨害する他の物質の影響等によって、検査結果が陰性となった場合を擬陰性という。
- c. 一般用検査薬の対象には、悪性腫瘍、心筋梗塞や遺伝性疾患等、重大な疾患の診断に関係するものが含まれる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問59】

尿糖・尿タンパク検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 検査結果において尿糖値に異常が生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿のように高血糖を伴わない場合もある。
- b. 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- c. 尿タンパクを検査する場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問60】

妊娠検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 妊娠が成立していたとしても、正常な妊娠か否かについては、妊娠検査薬による検査結果では判別できない。
- b. 尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けない。
- c. 経口避妊薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても、検査結果が陽性となることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤









